

福井大学大学院

福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科教職開発専攻

認証評価結果

福井大学教職大学院の評価ポイント

- ・「教員養成フラッグシップ大学」の指定を受け、実践と省察を深める教育として「実践の中の知」の理論生成を推進する「学校における実習」と「協働実践研究プロジェクト」「カリキュラム開発基礎研究、実践研究」を中心に、共通科目とコース別選択科目を連動させ効果的に機能させた、全国的にみても極めて特色のあるカリキュラムを構築・実践している。
- ・教育・学修方法の方針として、学校実地での実践的体験学修とその記録化による省察学修を構造的、重層的に組織し、各共通科目において学修重点内容に即して展開し、多様なステークホルダーとの多重メンバーシップによって省察を協働化（協働省察）し、「実践の中の知」の理論生成に結びつけ、成果をあげている。
- ・「学校拠点方式」にもとづく教員養成・教師教育の理念及びシステムを、国内外のネットワークとして、福井県教育委員会だけでなく板橋区教育委員会・宮古島市教育委員会・加賀市教育委員会・独立行政法人教職員支援機構など海外を含む他地域へ展開し、学生の学修・研究の推進へと還元させている。
- ・実務家教員として、福井県教育委員会派遣教員3名だけでなく、長野県教育委員会派遣教員1名、独立行政法人国際協力機構（JICA）派遣教員1名や、国際的な学修支援に向けた外国籍教員の採用、学校改革・教育改革支援に向けた企業や法律事務所で組織経営経験を有する実務家教員の採用など、他機関との多彩な人事交流を通じて、教員組織の多様化、学修支援の充実を進めている。
- ・学修環境として、講義室等は、連合教職大学院における多様な授業形態にあわせて、グループ活動等における議論と対話が効率的・効果的に実践できるように工夫され整備されている。また、実践研究に有効な図書、学術雑誌、視聴覚資料その他必要な資料が系統的恒常的に整備された学修環境が準備されている。
- ・教育研究活動について互いに報告・検討しあうSD研究会とも連動したFD研究会を毎週開催するなど、複数の大学教員が視点の違いを認識しながら、各自の専門性を常に発揮できる環境を構築するとともに、学生の各種学修記録や教員の記録等をFD研究会・公開実践研究交流集会（ラウンドテーブル）等を通して組織的に検討協議し改善に活かすというサイクルを確立している。

令和8年3月

一般財団法人教員養成評価機構

I 認証評価結果

福井大学教職大学院（福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科教職開発専攻）は、教員養成評価機構の教職大学院評価基準に適合していると認定する。

認定の期間は、令和13年3月31日までとする。

II 基準ごとの概評

基準領域1 学生の受入れ

基準1-1

○ アドミッション・ポリシーに沿い、入学者数の確保に努めるとともに、公平性、平等性、開放性を確保した学生の受入れを行っていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

「授業研究・教職専門性開発コース」「ミドルリーダー養成コース」「学校改革マネジメントコース」と全コースにおいてアドミッション・ポリシーに合致する人材を入学者選抜方法の基本方針にもとづき広く受け入れており、筆記試験と口述試験によってその資質を公平等に判断できるよう選抜する組織を適正に編成している。また、事前の研修・単位修得にもとづく1年履修のカリキュラムを開始し、より多くの現職教員に大学院への門戸を開くなどの成果もあり、入学定員はほぼ安定的に充足している。

基準領域2 教育の課程と方法

基準2-1

○ 教職大学院の制度並びに各教職大学院の目的に照らして、カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程を編成していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

学校・大学院・教育委員会の連携による「学校拠点方式」をカリキュラム編成の基軸とし、「学校における実習」と「学校拠点・省察的実践コアサイクル」により、ディプロマ・ポリシーにおける4つの教職専門性の開発を目指し、年次毎の学校拠点科目を上記科目の学びへと連動させていくことで、世代間交流・協働及び学修継承サイクルの視点で多様な世代が学び合うことのできる「理論と実践の融合」の実現を目指した体系的な教育課程が構成されている。実習科目と共通科目・コース別選択科目とのつながりと連動性が明確で、実践的かつ有効的な教育課程が編成されている。

基準2-2

○ 教職大学院の制度並びに各教職大学院の目的に照らして、ふさわしい授業内容、授業方法・形態になっていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

授業方法・形態が、学校における実践研究をベースに事例研究やグループ議論を複数の日程や、対面とオンラインを設定するなどの工夫により、適切な規模を保ちながら、双方向・多方向に行われるよう配慮されている。また、各学校・学生を複数の教員で担当し、大学院での事例研究等も小グループ毎に1名以上の教員が担当するなど、個別の学修履歴や実務経験に配慮した指導助言を可能にするとともに、省察の重層化を実現するため、実践経験の記録化を学生に義務づけ、カンファレンス後のレポートの蓄積が「学校改革実践研究報告」の執筆に結びつくなど、省察の重層化が丁寧に担保されている。

基準2-3

○ 教職大学院にふさわしい実習になっていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

学校における実習科目、また学校拠点・省察的実践コアサイクル科目群を中核にして、共通科目、コース別選択科目を連動させるコアカリキュラムのデザインを構築しており、学校における実習での学びと経験がすべての授業科目の基礎となるカリキュラム構造となっている。その中で、「学校にお

ける実習」は、1年間かけて実践・省察・記録化に取り組み、大学と学校の綿密な連携により充実した指導体制が整備されており、2年次も引き続き基本的には同じ学校において長期の協働実践研究プロジェクトに携わるなど、体系的に整備されたふさわしい実習になっている。

また、実習により修得する単位を免除する手続きに関しても、免除理由も含め、適切な運用方法が定められている。

基準 2－4

○ 成績評価・単位認定、修了認定が教職大学院の教育の在り方に照らして適切であること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

専門的知識や技術の習得評価だけではなく、長期にわたる実践、省察記録にもとづく総合的な評価システムを構築しており、学生にも周知されている。これらの成績基準や修了認定基準に従って、長期の協働実践研究プロジェクトの実践過程を示すレポートや中間レポート、最終レポート等をもとに、成績評価、単位認定、修了認定が複数の担当者の合議や教務・カリキュラムマネジメント委員会及び教務全体会議での承認により、組織的に適切に行われている。また、連合教職大学院内3大学においても担当教員相互による確認評価・学修評価が実施されることにより、その妥当性が担保されており、成績評価・単位認定・修了は適切に認定されている。

一方、成績評価の異議申し立てに関して、現在、「福井大学における成績評価異議申し立てに関する要項」を岐阜聖徳学園大学、富山国際大学の学生にも適用しており、岐阜聖徳学園大学、富山国際大学の学生には福井大学の学生と比較したときに、成績評価異議申し立て方法などの利便性に差がある可能性が残っており、連合教職大学院としての要項等の作成を進めていただきたい。

基準領域 3 学習成果

基準 3－1

○ 各教職大学院の目的及びディプロマ・ポリシーに沿って、学習成果があがっていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

長期にわたる協働実践研究プロジェクトと、それに関わる省察・検討・理論的研究としての成果がまとめられた公的な刊行物である「長期実践研究報告」作成の指導過程において、学生に、複数教員が助言し、学生の実践やマネジメントの省察を図り、公刊に向けて公教育の理念と責任を意識させることにより、実践を見る目を豊かに培っているなど、「長期実践研究報告」作成を中心として、教職大学院の教育成果・効果を示すことができている。また、多くの修了生が年に2回開催される公開実践研究交流集会（ラウンドテーブル）における取組報告などにより、教育実践研究に継続的に取り組むなど、学び続ける教師としての機会提供により、高い学習成果を見ることができる。

今後は、岐阜聖徳学園大学、富山国際大学の学生・教員と福井大学の学生・教員とが相互に補完し合う一体的な連携を通して、連合教職大学院ならではの多様で効果的な学修機会や、重層的な学修支援体制をソフト面、ハード面を含めていっそう強化し、より高い学習成果をあげることを期待する。

基準 3－2

○ 修了生の学習成果の把握に努めていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

修了生の学習成果の把握として、年2回開催される「運営協議会」において、拠点校・連携校・県教育委員会・市町教育委員会から在学生の学修状況及び修了生のその後の活動状況について意見を聴取する機会を設けるなど、中長期的かつ持続的に把握する仕組みを有している。また、複数回開催される公開実践研究交流集会（ラウンドテーブル）や「教職大学院ニュース・レター」の発行により修了生の活動をフォローしており、多層的な省察の実践コミュニティ及び福井県等との協働から、中長期的かつ持続的に修了生の学習成果を把握する仕組みを構築している。

これら修了生が学び続ける場とその把握機会は豊富に準備され、また、会議の場における活動状況の意見聴取機会は十分に担保されているが、学校現場における教員のメンタルヘルスが課題となっている現状を踏まえて、今後は、より個別の修了生を対象としたメンタル面も含めたフォローアップシステムが構築されることを期待する。

基準領域 4 教育委員会等との連携

基準 4-1

○ 教育委員会等との連携が機能していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教育委員会及び学校等と連合教職大学院が協議する「運営協議会」が整備されている。また、分科会などにおいて課題を共有し、教務・カリキュラムマネジメント委員会及び教務全体会議で検討し改善するサイクルを設け、効果的に運営されている。また、県内の福井県教育研究所、福井県嶺南教育事務所、福井県特別支援教育センター等の行政機関も「拠点校」として位置付け、協働研究を行っていく中で、連合教職大学院と新たな協働・協創の関係が構築されるとともに、板橋区教育委員会・宮古島市教育委員会・加賀市教育委員会・独立行政法人教職員支援機構と連携することで、他地域にわたり複数の教育委員会等との優れた連携機能を有し、学生の学修・研究の推進へと還元させている点は高く評価できる。

基準領域 5 学生支援と教育研究環境

基準 5-1

○ 履修指導並びに学修支援を適切に行っていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

履修指導に関しては、学生の履修に配慮した時間割が設定され、授業の実施方法や学生の負担程度への考慮について十分な措置がとられている。また、修了生には多様な実践発表の場を設けるなど、修了生と在学生を含む教員の実践研究コミュニティを支える体制を構築している。

学修支援に関して、学修状況等の個別の支援、特別な支援を必要とする者への学修支援、特性に応じた適切な学修支援のいずれについても、一人一人の学生に対して大学教員がチームで対応する態勢をとるなど、教職大学院全体でそれを共有し対処する組織が構築されているとともに、大学院と全学の連携・協働によって支える体制が整備されている。

基準 5-2

○ 生活支援、キャリア支援、経済支援の取組、並びに学生に対するハラスメント、メンタル・ヘルス等に対応する措置が適切であること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

チームで各学生に対応するとともに、毎週開催される教務・カリキュラムマネジメント委員会、教務全体会議、客員教員も参加するFD研究会等でも随時共有し、組織として課題に対処していく態勢をとることによって、個別対応と組織対応の両立を実現している。また、経済的支援に関しては、独自の基金とそれにもとづく奨学金をはじめとする新たな取組を進めており、適切に実施している。

一方で、ハラスメントに対する措置に関して、「国立大学法人福井大学におけるハラスメントの防止等に関する規程」など、福井大学の規則を適用しており、岐阜聖徳学園大学、富山国際大学の学生には福井大学の学生と比較したときに、ハラスメント相談員へのアクセス方法など、ハラスメント相談等の利便性に差がある可能性が推察され、連合教職大学院の規程等の作成を進めていただきたい。

基準 5-3

○ 施設・設備並びに図書、学術雑誌、電磁的方法により提供される学術情報資料を、有効に活用していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

連合教職大学院の多様な授業形態に適した各コラボレーションホールでは、拠点・連携校及び連携機関等とオンライン接続も含め、効率的、効果的に学修が行える環境を整えている。また、学修過程や教育実践記録が閲覧できるデジタル・アーカイブも整理されており、学生が学術情報資料などを有効に活用できる環境が整っている。

基準領域 6 教育研究実施組織

基準 6-1

○ 教育研究上の目的を達成するための組織が機能していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

「運営協議会」や「教育課程連携協議会」を定期的開催するとともに、各種委員会を設置し、学内外の関係機関との連携・調整を図ることで、組織内に閉じることのない開かれた管理運営体制を実現している。また、理論と実践の往還を図ることを目的に、すべての科目を実務家教員と研究者教員の複数教員で担当するなど、協働実践研究を中心に研究の深化・理論化を目的とした教員組織となっている。

一方で、前回指摘より改善はみられたが、提出された資料からは、一部の教員への職責の偏りを見ることができる。学校拠点・省察的实践コアサイクル科目が学修の核となっているため、講義内容のデザイン構築、教材資料準備など、学修活動全体像の構築が教務・カリキュラムマネジメント委員会に所属する一部教員の職責となることは理解できるが、単に講義担当時数の平準化だけでなく、各大学教員の持つ多様な専門性などを背景とした体系的な学びによる教職専門性の向上を目的とした学修機会の充実などにより、各大学教員による講義内容デザイン作成の機会を拡大するなど、職責分担による平準化が一層進むことが望まれる。

基準 6-2

○ 教育研究上の目的を達成するために、組織的に研究する環境を備え、またFDに取り組んでいること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

教育研究活動について互いに報告・検討しあう毎週のFD研究会において、複数の教員が視点の違いを認識しながら、各自の専門性を発揮できる環境にあり、すべての教員が教師教育に関わる実践研究・理論研究を毎年積み重ねた成果が教育研究報告年報『教師教育研究』となっている。また、FD研究会はSD研究会と連動しており、『教師教育研究』には、教員と事務職員との協働による実践研究論文が公表されている。

基準領域 7 点検評価と情報公表

基準 7-1

○ 教職大学院の教職課程の自己点検・評価を定期的、組織的に行っていること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

毎週開催されるFD研究会における教育研究活動の相互点検・実践者からの評価、運営協議会・教育課程連携協議会の開催、「教育課程の自己点検・評価（モニタリング及びプログラム・レビュー）に関するガイドライン」に基づいた毎年の教育課程モニタリング等を通して、教職課程を組織的に検討協議し改善に活かすという自己点検・評価サイクルを確立している。また、年2回開催される公開実践研究交流集会（ラウンドテーブル）において学生、外部専門家や学校・教育委員会、修了生等から意見を聴取する機会を持つなど、定期的・組織的に評価活動を行っている。

基準 7-2

○ 教職大学院の教育研究活動等の状況並びに成果を、広く社会に公表するため、積極的に発信していること。

評価結果・・基準の内容を満たしていると判断する。

ウェブサイトや刊行物、ニュース・レター、広報誌等、様々な媒体によって、教育・研究、組織・運営、施設・設備等の状況について、学内外に向けて幅広く公表している。また、ニュース・レターには、英語による記事も掲載されており、国際的な教師教育ネットワークの構築と拡大、及び連合教職大学院が取り組む教員養成・教師教育の国際モデル化に寄与している。

設立時から発行されている『教師教育研究』と『教職大学院ニュース・レター』は、自己評価・相互評価・外部評価等の基礎資料としての役割を果たしている。

Ⅲ 評価結果についての説明

福井大学から令和6年11月1日付け文書にて申請のあった教職大学院（福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科教職開発専攻）の認証評価について、その結果をⅠ～Ⅱのとおりに報告します。

教員養成評価機構では、「教職大学院等の認証評価に関する規程（平成21年10月20日理事会決定）」に基づき「認証評価実施要項」、「自己評価書作成要領」、「訪問調査実施要領」等により福井大学が実施した自己評価を前提に書面調査及び訪問調査を行い、評価結果を作成しました。

評価は、機構の評価委員会の下にある評価専門部会の評価員6名が担当しました。評価員は、教職大学院等を有する大学の関係者、有識者で構成されています。評価にあたっては、教職大学院評価基準（平成21年10月20日決定）に基づき実施しました。

書面調査は、令和7年6月末に提出のあった「教職大学院認証評価自己評価書」、「基礎データ：1 現況票、2 専任教員個別表、3 専任教員の教育・研究業績、4 シラバス」及び資料1 令和7年度福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科学生募集要項ほか全87点、訪問調査時追加資料：資料88 福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科規程 全1点」をもとに調査・分析しました。

「教職大学院認証評価自己評価書」における「Ⅶ 基準ごとの自己評価」の調査・分析については、「Ⅵ 前回評価の指摘事項の対応状況」及び「Ⅷ 法令要件事項の確認」の記載内容を踏まえています。

各評価員による調査・分析の結果は、主査（福井大学教職大学院認証評価担当）に集められ、評価専門部会（評価チーム会議）の検討を経て整理し、令和7年9月17日、福井大学に対し、訪問調査時における確認事項と追加提出書類・閲覧書類に関する連絡をしました。

訪問調査は、「現地訪問視察」と「ウェブによる面談」に分け、令和7年10月3日に現地訪問視察を、令和7年12月1日にウェブによる面談を福井大学教職大学院に対して実施しました。

現地訪問視察では、教職大学院関係者（責任者）及び教員との面談（1時間30分）、学生との面談（1時間）、連携協力校の視察・同校校長及び教員等関係者との面談（1校1時間）、学習環境の状況調査（30分）、関連資料の閲覧を実施しました。

ウェブによる面談では、教育委員会等関係者との面談（45分）、連携協力校校長及び教員等関係者との面談（45分）、授業等教育現場視察（1科目1時間）、修了生との面談（45分）、教職大学院関係者及び教員との面談（15分）を実施しました。

書面調査と訪問調査に基づき、各評価員から主査に調査・分析結果の最終報告が集められ、主査及び副査が評価結果を取りまとめた後、評価員全員で確認し、令和7年12月24日開催の評価専門部会において審議し「評価結果原案」としました。

「評価結果原案」は、令和8年1月16日開催の第2回評価委員会に諮り審議し、「評価結果案」としました。「評価結果案」を、福井大学に示し、意見申立の手続きを経たのち、第3回評価委員会を行い、令和8年3月5日をもって最終的な評価結果を決定いたしました。

評価結果は、表紙の「教職大学院の評価ポイント」、「Ⅰ 認証評価結果」、「Ⅱ 基準ごとの概評」で構成されています。

「教職大学院の評価ポイント」は、福井大学教職大学院の教育課程、教員組織、施設・設備、そのほか教育研究活動について、評価により見出される特色や大きな問題点について記しています。

「Ⅰ 認証評価結果」は、機構の教職大学院評価基準に適合しているか否かを記しています。適合していない場合は、その理由を付しています。

「Ⅱ 基準ごとの概評」は、基準ごとの評価結果、及び基準ごとの評価により見出される特色や問題点について記しています。

Ⅰで認証評価基準に適合しているにもかかわらず、問題点や改善を要する事項が記載された事項は、今後、是正するような措置を講じることを求めるものです。ただし、このことについて、後日、改善報告書等の提出を求めるものではありません。

以 上

添付資料一覧

- 資料 1 令和 7 年度福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科
学生募集要項
- 資料 2 福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科教職員免許
プログラム案内
- 資料 3 福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科入試広報委
員会要項
- 資料 4 1 年履修の根拠を示す資料
- 資料 5 東京サテライト事務所説明資料
- 資料 6 教職専門性開発コース説明会チラシ、入試説明会レジュメ
- 資料 7 事前ガイダンス資料
- 資料 8 教員養成フラッグシップ大学構想調書（要約版）
- 資料 9 令和 6 年度福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科
開設授業科目一覧
- 資料 10 福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科のカリキュ
ラムの構造と授業科目の関係性
- 資料 11 令和 6 年度時間割表
- 資料 12 履修モデル
- 資料 13 令和 6 年度拠点校・連携校担当教員一覧
- 資料 14 運営協議会及び教育課程連携協議会資料
- 資料 15 令和 6 年度福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科
年間計画
- 資料 16 令和 6 年度前期履修登録状況
- 資料 17 令和 6 年度 11 月月間合同カンファレンス・プログラム／グループ表
- 資料 18 令和 6 年度 4 月 26 日週間カンファレンス進行表
- 資料 19 福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科教職開発専
攻集中講座 Cycles 2024 Summer（抜粋）
- 資料 20 「学校改革実践研究報告」目録（抜粋）
- 資料 21 インターンシップの手引き
- 資料 22 「学校における実習」の構成
- 資料 23 令和 6 年度インターンシップ事前説明会（レジュメ）
- 資料 24 福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科履修規程
- 資料 25 令和 6 年度実習免除者提出資料
- 資料 26 福井大学における多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン
- 資料 27 福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科（連合教職
大学院）授業科目の評価の方法に関する内規等
- 資料 28 長期実践研究報告の評価
- 資料 29 福井大学大学院学則
- 資料 30 福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科委員会規程
- 資料 31 福井大学における成績評価異議申立てに関する要項
- 資料 32 令和 6 年度長期実践研究報告評価担当一覧
- 資料 33 学習科学・学習研究に基づく発展段階評価スケール「長期的で組織的なプロジェクト学習の
展開とその省察・展望」
- 資料 34 省察的実践評価スケール「実践省察の重層性・発展性」
- 資料 35 直近年度の科目別の成績評価（標語）分布
- 資料 36 令和 6 年度 2 月公開実践研究交流集会一次案内
- 資料 37 「学校改革実践研究報告」（長期実践研究報告を刊行したもの）
- 資料 38 令和 6 年度 FD/SD 研究会後期計画
- 資料 39 単位修得率，学位修得率，修了率（令和 2 年度～令和 5 年度）
- 資料 40 留年，休学，退学の状況（令和 3 年度～令和 6 年度）

- 資料 41 授業研究・教職専門性開発コース修了者の就職状況（令和２年度～令和５年度）
- 資料 42 令和６年度２月公開実践研究交流集会グループ表
- 資料 43 福井大学教職大学院ニュース・レター No. 154, 155, 161 抜粋
- 資料 44 福井大学教職大学院ニュース・レターNo. 155 図書紹介「小坂康之・林公代『さばの缶づめ、宇宙へいく一鯖街道を宇宙へつなげた高校生たち』（イースト・プレス、２０２２年）」
- 資料 45 令和６年度第２回運営協議会グループ別協議の記録
- 資料 46 令和６年度東京サテライトラウンドテーブル案内
- 資料 47 令和６年度夏季集中講座グループ表
- 資料 48 福井県教員育成協議会
- 資料 49 国立大学法人福井大学と福井県教育委員会との連携・協働に関する協定書
- 資料 50 令和６年度国立大学法人福井大学と福井県教育委員会との連携・協働による客員教員・共同研究員一覧
- 資料 51 教育総合研究所と共催による中堅教諭等資質向上研修・４０代研修・５０代研修要綱
- 資料 52 令和６年度福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科教職開発専攻開講式（レジュメ）
- 資料 53 国立大学法人福井大学における障害を理由とする差別の解消の推進に関する規程
- 資料 54 障害のある学生への支援ウェブサイト
- 資料 55 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況
- 資料 56 国立大学法人福井大学におけるハラスメントの防止等に関する規程
- 資料 57 福井大学におけるハラスメントの防止・対策に関するガイドライン
- 資料 58 福井大学学生総合相談室ウェブサイト
- 資料 59 福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科奨学金取扱要項
- 資料 60 福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科奨学金に関する申合せ
- 資料 61 令和６年度奨学金支給実績
- 資料 62 令和４年１月スタディ・ワーク計画表
- 資料 63 附属義務教育学校内教職大学院
- 資料 64 教育系１号館配置図
- 資料 65 デジタル・アーカイブ Web ページ
- 資料 66 福井大学附属図書館 Web ページ
- 資料 67 令和６年度 大学院経費
- 資料 68 教員養成領域予算配分格付表
- 資料 69 外部資金獲得状況
- 資料 70 福井大学学術研究院教育・人文社会系部門教員養成領域，教育学部及び大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科人事・企画委員会要項
- 資料 71 福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科総務委員会要項
- 資料 72 福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科教務・カリキュラムマネジメント委員会
- 資料 73 福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科担当教員資格審査要項
- 資料 74 福井大学連合教職大学院ウェブサイト（教員紹介）
- 資料 75 福井大学研究者総覧
- 資料 76 令和６年度コーディネーターリサーチャー，エリアファシリテーター一覧
- 資料 77 福井大学学術研究院教育・人文社会系部門教員選考要項
- 資料 78 福井大学教育・人文社会系部門教員養成領域における教員選考に関する申合せ
- 資料 79 教育・人文社会系部門教員養成領域教員採用・昇格人事に関する申合せ
- 資料 80 令和６年度院生・事務等担当者（指導教員）一覧

資料 81 育児支援制度について（福井大学）

資料 82 男性の育児支援制度のご案内

資料 83 『教師教育研究』（17 巻）

資料 84 教育課程のモニタリング

資料 85 福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科ウェブサイト

資料 86 外国人留学生数の公表状況

資料 87 福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科教育課程連携協議会要項

〔追加資料〕

資料 88 福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科規程